

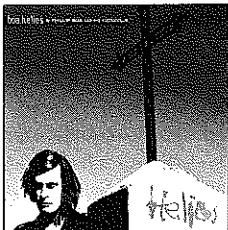
ANNIE FLIES THE LOVE-BOMBER/PHILLIP BOA AND THE VOODOO CLUB



POLYDOR  
12 INCH : 887 497-1  
FROM : WEST GERMANY  
PROD : PHILLIP BOA, JOHN LECKIE  
B ① Revolution - Babe ② Scotland Yard

2月にサード・アルバムをリリースしたばかりのフィリップ・ボア&ザ・ヴoodoo・クラブのニュー・シングルがもう届いた。タイトル曲はチェロやバイオリンを取り入れた、非常に力強いナンバーだ。特にかつてのステイヴ・リリーホワイトのプロデュース程まではいかなくとも、かなり厚いドラムの音が印象的で、彼らのメジャーにかける意気込みがヒシヒシと伝わってくるようだ。また、B面では前作のリミックスを2曲収録。もう少し、日本での評価が上がってもいいバンドの1つだろう。(大谷英之)

HELIOS/PHILLIP BOA & THE VOODOO CLUB



POLYDOR  
CD : 847 866-2  
FROM : GERMANY  
PROD : C. LEON, T. TAVERNER

信じられないっ! フィリップ・ボア&ザ・ヴoodoo・クラブの、このニュー・アルバムが日本でリリースされる予定が今のところないなんてっ! この衝撃の事実! 打ちのめされた私だった。

前作より約1年ぶりの新作ですが、前作と比べると全体的に落ち着いた感じで、スピード感よりも広がりを見せる仕上がり。特に1曲目は静かで冷たい空気、そして大きな空間を感じさせる。ちょっと暗めの曲が多いには不満もありますが、複数のプロデューサーを感じさせない、彼等ならではのサウンドが展開されている。そして、ポップでキャッチーなメロディにのせて、とんでもなく暗い歌詞を唄ってたりするところが不気味。しかし、なんて本国でもプレイクしないんでしょうね? 決してマニアックな音じゃないと思うんですけど。そう思ってるのは私だけですか? ⑨ 荒川れいこ



ヘルイオス/フィリップ・ボア&ザ・ヴoodoo・クラブ  
CD:POOP-20248(ポリドール),6月11日発売

「ニコーウエイヴ」直線

ドイツのニュー・ウェーブ・バンド・フィリップ・ボア&ザ・ヴoodoo・クラブの本邦デビュー盤である。タイトルは有名なロック・ミュージカルと同名の『クアール』。プロデューサーはデビッド・ボウイ派の重鎮トニー・ウィンスロントニー、ニコー・オーター派本部専務のジエイ・バーネット、それに五ジャム派代表のトニー・タウナー等々。加えて「ウエイヴ」イーン・クロー・マイ・マン。のかわアールがあつてバンドの形態がヴェルヴェット&ニコを思い起しさせるに十分といつたあかつきには、これはもうニコーウエイヴ・バカー代と呼ぶしかないだろう。フィリップ・ボアは現在29歳。音楽活動以外にもドイツ・インター・シーンの世話役みたいなことをしているという。

そしてしかし、個人的には非常に好きな音の世界なのだが、ほくほくしても全18曲というこのお買得盤にのめり込めなかつた。だからこれはあまりにも難解がなまざるのである。中古盤屋の「ニコーウエイヴ」コーナーのレコーと全部聴き終らした的なのフィリップ・ボアの楽曲は、非常に完成度が高いオリジナリティというものが皮肉的に表裏している。なんだか秀才が「狂気」をすく意識的な視点から追求しているみたいなのだ。かつてのワースト・コースト・ロックと似た感じにニコーウエイヴを構築する気がないほくほくとは、その辺がくたくたに仕上がった。今「華アナーキー」な自民党のネオ・ニコーリーター性論ではないが、ネオ・ニコーウエイヴの遺跡を願う。 斎藤孝一